

常石ともにまちづくり推進委員会

委員長 梶原 祐爾

(問合せ先) 084-987-3839 (常石交流館)

**事業内容**

- (1) 「育む」安心・安全① 防災倉庫点検（5月11日 3箇所）  
 合同避難訓練（11月23日） 267人  
 避難所体験（11月26日） 約90人  
 地域防災マップ制作 1,200部 防災士養成 1人合格
- (2) 「育む」安心・安全② 交通・防火意識啓発（年7回）実施 登下校見守り活動（課業日）  
 おでかけ支援事業（買物支援週4日ほか）
- (3) 「培う」繋がり① 合同夏まつり（7月12日）常石ともに学園 約600人  
 二十歳を祝う会（8月 9日）常石交流館 44人  
 つねいし交流広場（10月18日）常石ともに学園 約800人
- (4) 「培う」繋がり② 絵手紙交流 敬老対象者 262人 児童 159人
- (5) 「引き継ぐ」技と知識 各種世代間交流の実施  
 防災啓発企画 85人 もぐもぐ交流 35人 スポーツ教室 60人  
 落語を聞く会 107人
- (6) 「果たす」みんな一役① 環境美化活動（4月～3月） 地域内一円  
 一斉古紙回収（リサイクル）（4月～3月）延べ約210人  
 地域内春季一斉清掃（5月11日）313人
- (7) 「果たす」みんな一役② まちづくり広報活動（年12回 A3両面 発行総数 8,400部）
- (8) 「図る」地域連携による活性化 「人・まち・ふくしまルシェ2025」開催中止
- (9) 「支える」委員会活動 推進委員会運営事業  
 （年11回 委員会178人 年11回 例会265人）

**成果**

事業の集約化や事業内容の工夫などにより、地域コミュニティの維持を図ることができた。地域と学校、さらに地元企業や各種団体等へと参加の輪が広がっていき、新たな地域文化の土壌が整った。

また、避難訓練や参加型イベントにおいて、自分たちのノウハウを活かして、各種団体が積極的にかかわってもらえる取り組みができた。

**課題**

地域活動の支え手の高齢化により、新たな担い手を必要とする事案が多くなるに伴い、負担感を感じるものがない取り組みを検討する必要がある。

**課題解決にむけて**

少子高齢化・担い手不足などの現実課題があるなかで、旧態依然のやり方を固持することなく、新しいカタチに寄り添い、次世代にうまくつながるよう、大切にしていけることが求められる。

つちか はぐく たし つな  
培い育む「確かな繋がり」のつづき

～形から心のふれあいへ～

地域コミュニティの真ん中にいたのは、いつの時代も学校であった。ゆえに、学校が、遠く感じられるようになると、地域の賑わいはなくなってしまうとされている。

3年という期間を要して、学校と地域で創り出してきた「つねいし交流広場」という形の機会を、より実りある催しとするため、各種世代間交流を補完事業として実施。地域の野球クラブと児童のボール投げ教室、学校給食を媒体としたモグモグ交流、地域やボランティアなどで敬老対象者に防災啓発、みんなで落語を聞く会などに取り組んだ。

このような取り組みの積み重ねが、心のコミュニティへのきっかけとなり、地域に根が張り巡らせられ、「常石よいとこ」の踊りの輪が、さらに広がっていくよう頑張っていきたい。

つねいし交流広場



地域で二十歳をお祝い



スポーツ教室



2025  
「常石よいとこ」の踊りの輪

もぐもぐ交流



落語会

